



スクールソーシャルワーカー（SSW）の活用について

1 スクールソーシャルワーカー活用にあたって

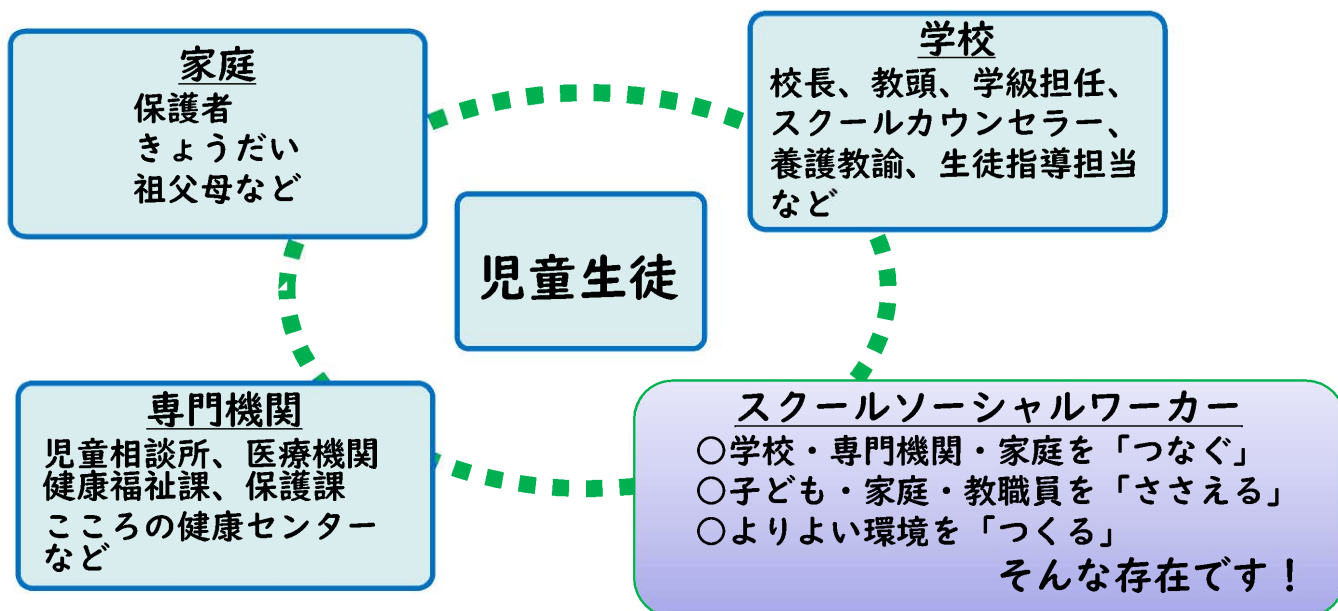
SSWは、児童生徒や保護者への直接的な個別援助、教職員へのコンサルテーション、関係機関との連携のパイプ役として活動しています。

学校では介入しづらい家庭の問題を、スクールソーシャルワークの視点をもつ専門家がかかわることで、児童生徒を取り巻く環境の改善を通して、児童生徒の問題行動を解決していきます。

2 スクールソーシャルワーカーの支援内容

- (1) 問題を抱える児童生徒がおかれた環境への働き掛け
- (2) 関係機関とのネットワークの構築並びに連携及び調整
- (3) 学校内におけるチーム体制の構築及び調整
- (4) 保護者、教職員等に対する支援、相談及び情報提供
- (5) 教職員等への研修活動

3 スクールソーシャルワーカーの支援のイメージ



4 スクールカウンセラーとの違い

	スクールソーシャルワーカー（SSW）	スクールカウンセラー（SC）
役割	教育機関において福祉援助業務に従事する 福祉職専門家 児童生徒の「 環境 」に働き掛ける ネットワーク構築、連携、調整	教育機関において心理相談業務に従事する 心理職専門家 児童生徒の「 心の問題 」に働き掛ける 受容、共感、傾聴
職務	(1) 問題を抱える児童生徒が置かれた 環境への働き掛け (2) 関係機関とのネットワークの構築並びに連携及び調整 (3) 学校内におけるチーム体制の構築及び支援 (4) 保護者、教職員等に対する支援、相談及び情報提供 (5) 教職員等への研修活動	(1) 児童生徒への カウンセリング (2) カウンセリング等に関する教職員及び保護者に対する助言・援助 (3) 児童生徒のカウンセリング等に関する情報収集・提供 (4) その他児童生徒のカウンセリング等に関し各学校において適当と認められるもの

5 学校のケース会議に活用



初期の段階での支援が可能

潜在的な問題への複合的支援

「学年でのケース会議」、「校内全体でのケース会議」「関係機関を含めたケース会議」などにも参加します。

SSWは福祉の専門家です。多様な知識・技術・情報に基づき、専門的見立てを行い、支援のためのコンサルテーション（専門家による指導・助言を含めた検討）を提供します。

6 スクールソーシャルワーカーの派遣依頼

○派遣依頼は、校長から学校支援課（生徒指導班総括指導主事）に電話で依頼してください（025-226-3299）。

※派遣までに時間を要する場合があるため、早めの依頼をお願いします。

活用に関わる詳細につきましては、

「スクールソーシャルワーカー活用ガイドライン」をご参照ください。

（C4th書庫に格納してあります。）

校長先生からの声

【小学校長】

これまでなかなか医療受診に向かわなかった保護者が、SSWとの面談を通して子どもの医療受診を決め、動き出しました。児童や保護者の悩みを親身に聴き、豊富な経験と知識で、適切な支援へと導いてくれるSSWの存在を大変ありがたく思っています。学校の様子だけではなく、家庭での状況も基に、児童福祉の観点から行政機関や医療機関につなぐ働き掛けをしてくれることで、児童や保護者も納得して環境改善に向かうことができています。

【中学校長】

当校では、SSWのおかげで、困り感を抱える保護者や生徒への寄り添いとして大きな役割を果たしています。例えば、本人との面談が困難な不登校生徒に対しても、家庭訪問や学校外での面談を通して、生徒を多面的に支える支援体制が構築できました。また、必要に応じて医療・福祉などの関係機関と連携・調整を行ってくれます。同行受診をすることで学校の意図を担当医と正確に共有することもできました。これらにより、生徒・保護者が孤立せず、学校全体で支える仕組みがより効果的に機能しています。

【高等学校長】

SSWの支援により、あるケースでは、父親が娘への関わりについて抱えていた「正しい答えを示さなければ」という不安が和らぎ、気持ちに寄り添う姿勢へと変わりました。別のケースでは、不安定だった母親の気持ちが落ち着き、家庭の雰囲気も和らいでいます。不登校傾向の生徒には、登校を強いるのではなく、努力を認める関わりが広がり、安心につながっています。さらに福祉機関との連携も進み、家庭と学校をつなぐ体制が強化されています。

スクールソーシャルワーカーから

私たちは、ソーシャルワークの専門職として、アセスメントを行い、そこから見えてきた課題を解決できるように支援していきます。

「福祉」と「教育」では違った視点を持っていると思います。それぞれの強みを生かし、多角的な視点でケースを捉え、「困難な問題」も一緒に良い方向に向かっていけるよう協働していきたいと思っています。

「どのような時に活用できるのか？」と迷った時、とりあえず、ご一報ください。

先生たちの日ごろの何となく流してしまいそうだけど気になる「あれ？」と言う『違和感』が、「子どもたちにとって、とても大切な一歩」となる時があります。

『教育福祉』を実現していけるよう尽力していきたいと思っていますので、ぜひ、私たち「スクールソーシャルワーカー(SSW)」をご活用ください。



R7 新潟市国際交流事業 ハルビン市派遣



令和7年10月26日から29日まで3泊4日で、市立高校生1名、中学生5名、小学生3名をハルビン市へ派遣しました。（教育長を含む引率者4名）

主な日程



簡単な中国語や英語・
ジェスチャーを用いて
積極的に交流しました

10月26日（日）	9:00 新潟駅発 15:00 ハルビン国際空港着 18:00 歓迎夕食会 
10月27日（月）	9:00 ハルビン市公園小学校 （小4、5年生との交流：漢字を用いながら日本語と中国語の違いを体感するためのジェスチャーゲーム、パズルなどの中国伝統玩具体験、両市の紹介） 14:00 ハルビン市第一中学校 （日本語クラスの高校2年生と交流：切り絵体験、中国の人気アニメ紹介、日本語と中国語の早口言葉体験、両市の紹介） 16:30 中央大街見学    
10月28日（火）	9:00 ハルビン市風華小学校 （小学6年生と交流：中国結び・書道・マールブリング・伝統ゲーム体験、新潟市紹介） 14:00 黒竜江省中医薬大学博物館見学 （漢方に使う原材料の展示品見学、防虫袋作り体験） 18:00 送別夕食会      現地の観光や食文化も体験し、充実した時間になりました
10月29日（水）	8:00 ハルビン太平国際空港発 18:10 新潟駅着、解散

参加者の感想（事後アンケートより）

学校訪問の満足度「とても満足した」の理由

- ・言葉が通じないのってどんな感じなんだろうと思っていたけど、言語の壁があってもジェスチャーや英語を使ったり、中国語の発音の仕方も教えてもらったり、現地の子と仲良くなってコミュニケーションを取れたのがすごく嬉しくて楽しかったから。
- ・旅行では学生と触れ合うことはできないけど、訪問形式だったからお互いに遊びや学校生活などを気兼ねなく交流することができたから。
- ・学校訪問は、私が1番楽しみにしていたことで、予想通りとても楽しくて面白かったから。
- ・日本の学校との違いを肌で感じられたから。
- ・中国の文化をたくさん知ることができ、お互いの国の情報交換をしっかりとできたから。



派遣を生かしてこれからがんばっていくこと

- ・言葉が通じれば、もっと有意義で楽しい派遣になったと思うから、語学（特に英語）を頑張って、コミュニケーションに困らないレベルまで話せるようになりたいです。このハルビン派遣のように、これからも興味のあることにはたくさん挑戦していきたいです。
- ・新しいことにチャレンジするのは怖いけれど、新しいことに挑戦した時、自分の世界がもっと広がるし、自分も成長できると今回の派遣で分かったので、これからもチャレンジしたその先には、すごく素敵でワクワクする自分を成長させてくれるところだと信じて、いろいろなことにチャレンジしたいです。さらに、今回中国の文化を受け入れよう、知ろうとしたように、自分とは違う考え方の人のことを否定するのではなく、素直な心で聞いて新しい世界を体験したいです。
- ・まずは中国の小学生の学習能力に感動したので、今まで以上に勉強に励んでいきたいです。また、今回の派遣を通して異文化、異言語でもコミュニケーションがとれることを自分の中で証明できたので、英語圏に限らずもっとたくさんの国にチャレンジしたいです。